

製品名: CD244 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08306**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	42kDa

抗原情報

遺伝子名	CD244
別名	CD244; 2B4; Natural killer cell receptor 2B4; NK cell activation-inducing ligand; NAIL; NK cell type I receptor protein 2B4; NKR2B4; h2B4; CD244
遺伝子 ID	51744.0
SwissProt ID	Q9BZW8
免疫原	抗血清はヒト CD244 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

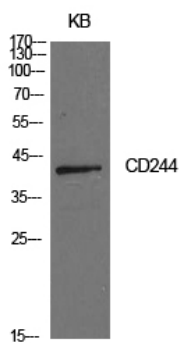
背景

この遺伝子は、ナチュラルキラー（NK）細胞（および一部のT細胞）に発現し、主要組織適合遺伝子複合体（MHC）非依存的な細胞傷害を媒介する細胞表面受容体をコードしています。この受容体を介したNK細胞と標的細胞の相互作用は、NK細胞の細胞傷害活性を調節すると考えられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq提供、2009年10月]機能：他の受容体-リガンド相互作用を調節し、白血球活性化を促進する。PTM：リン酸化されている。類似性：2つのIg様（免疫グロブリン様）ドメインを含む。サブユニット：CD48と相互作用する。リン酸化後、PTPN11/SHP-2およびSH2D1A/SAPをリクルートすることができる。SH2D1A/SAPはCD244に結合すると、PTPN11/SHP-2との結合を阻害する。組織特異性：脾臓、末梢血単核球（PBL）、次いで肺、肝臓、精巣、小腸に発現する。NK細胞だけでなく、単球や好塩基球にも発現する。

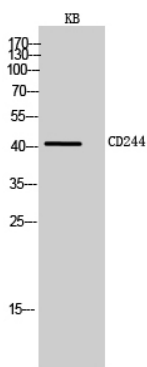
研究分野

ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性

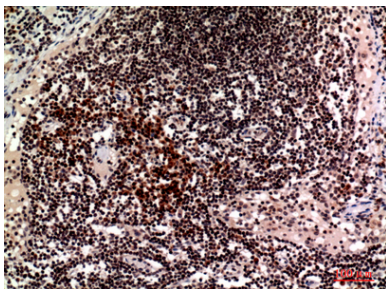
画像データ



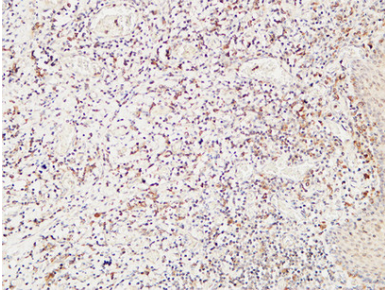
CD244 ポリクローナル抗体を用いた KB 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



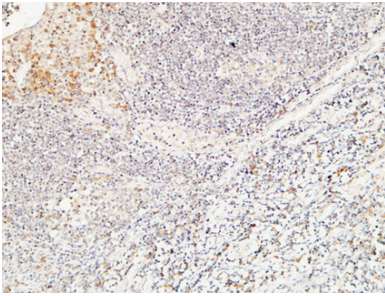
CD244 ポリクローナル抗体を用いた KB 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



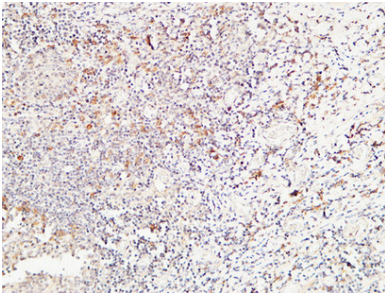
パラフィン包埋ヒトリンパの免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。